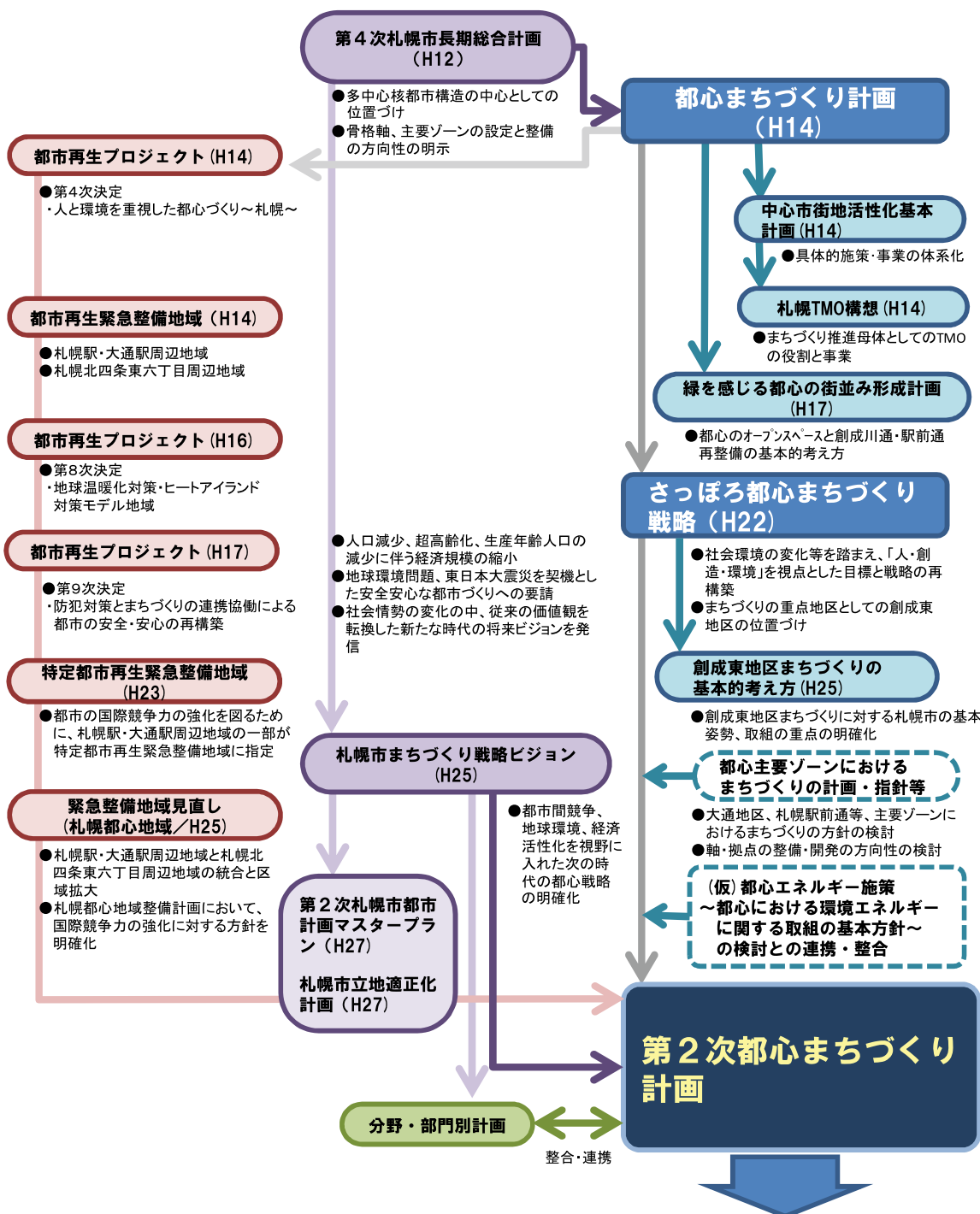




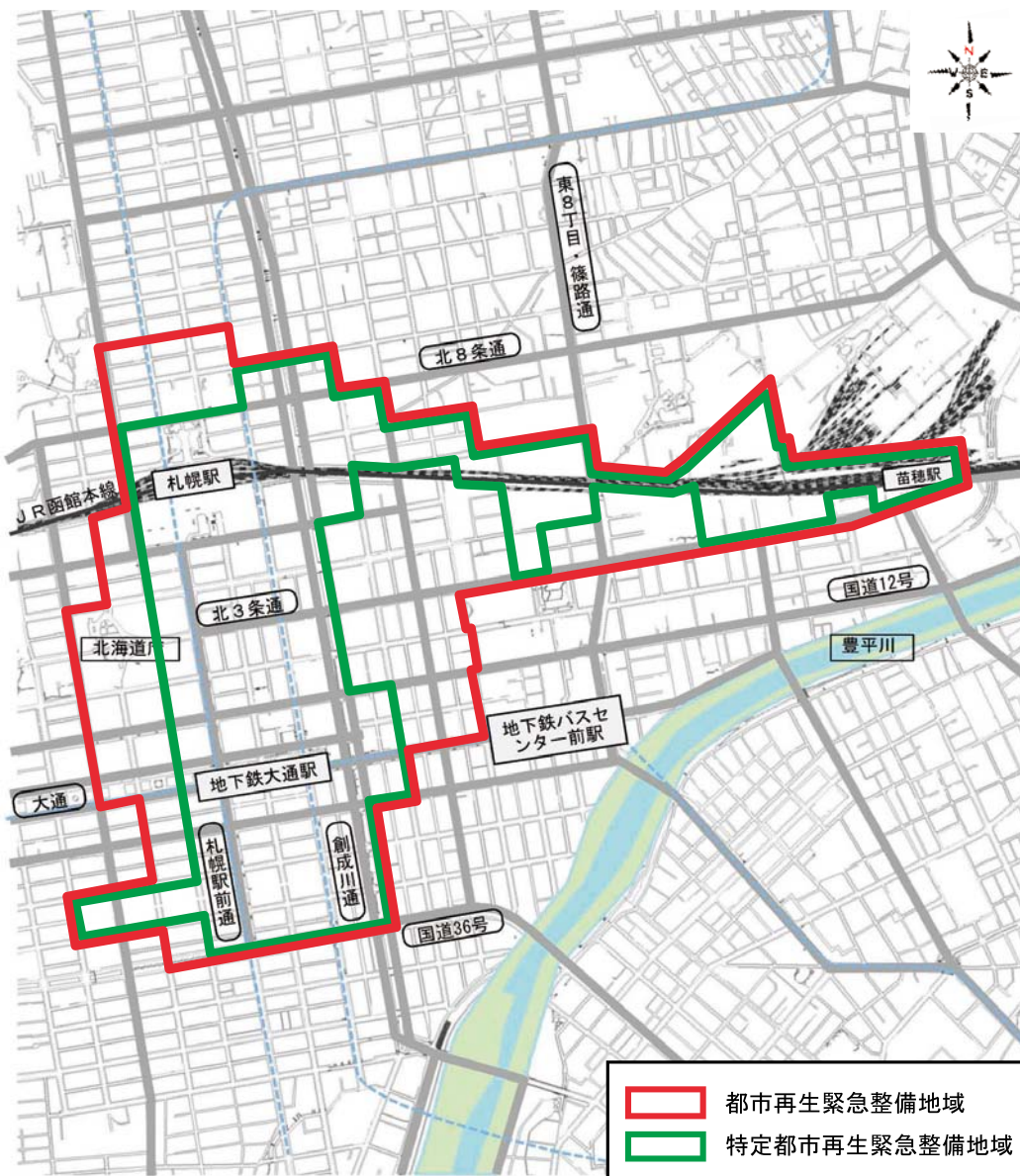
參考資料

【資料1】 都心まちづくりの経緯

札幌都心のまちづくりは、第4次札幌市長期総合計画（平成12年度）において定められた多中心核構造の中核としての都心の整備のあり方を具現化するために、前都心まちづくり計画の策定を機に、都市再生と一体的に今日まで展開されてきました。



【資料2】 都市再生緊急整備地域 特定都市再生緊急整備地域



<これまでの経緯>

- ・H14.10.25 札幌駅・大通駅周辺地域 地域指定 (144ha) (H14 政令第 318 号)
- ・H14.10.25 札幌北四条東六丁目周辺地域 地域指定 (19ha) (H14 政令第 318 号)
- ・H24.1.25 札幌駅・大通駅周辺地域 地域指定 (特定地域 110ha) (H24 政令第 11 号)
- ・H25.7.12 札幌都心地域 地域指定 (225ha、特定地域 145ha) (H25 政令第 216 号)
(札幌駅・大通駅周辺地域及び札幌北四条東六丁目周辺地域を統合・拡大し、札幌都心地域に名称変更)

【資料3】 策定の仕組み

本計画の策定は、平成26年度、平成27年度の二か年で行い、この過程において、「都心まちづくり計画策定協議会」を中心に計画作成に係る議論・検討を進めました。

さらに「都心交通」「エリアマネジメント」「観光・MICE」という視点から都心まちづくりを専門的に検討するための部会を設置し、重点的な議論を進めてきました。

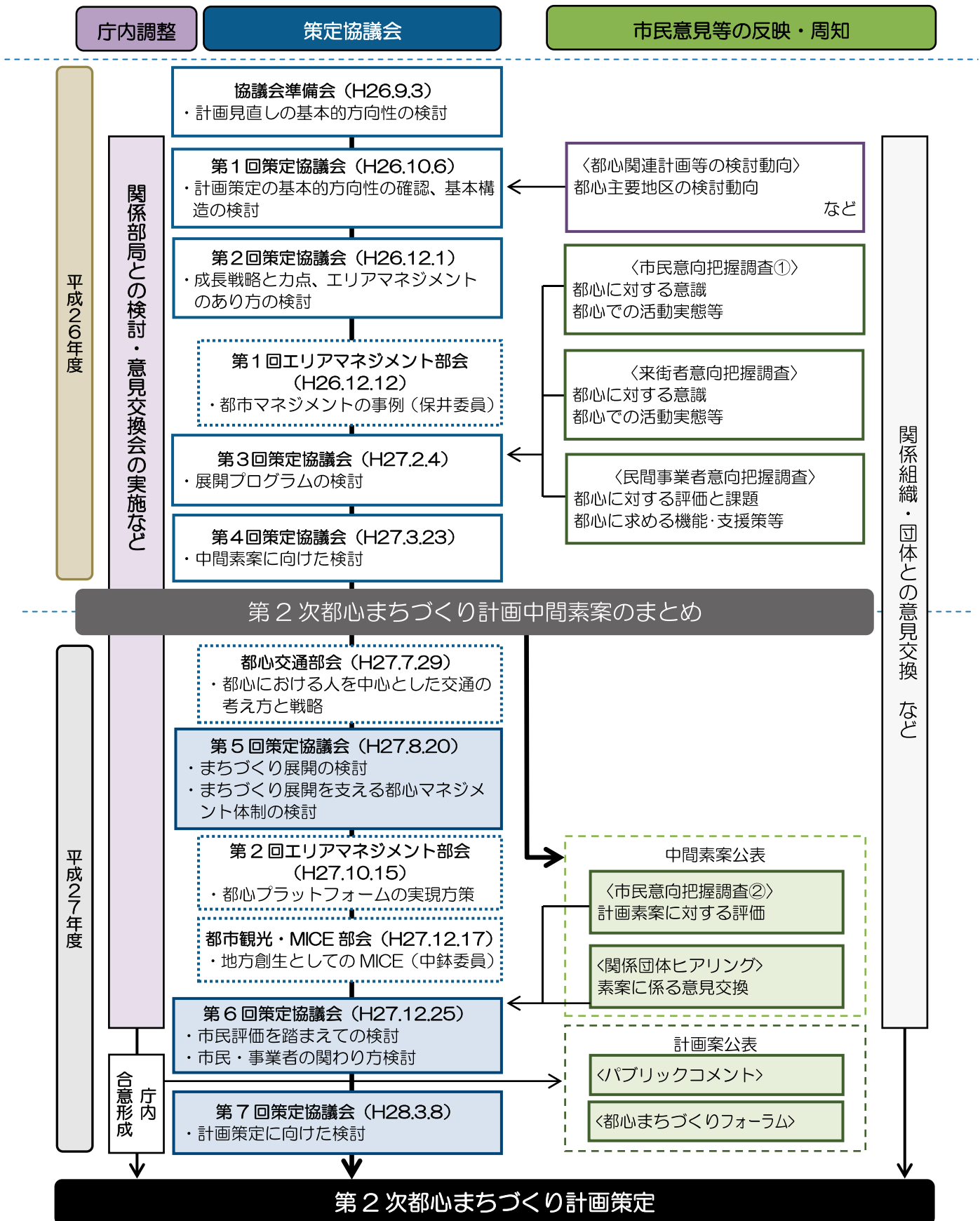
また、市民アンケートをはじめ、多方面からの意見集約を図り、これからの都心まちづくりの方向性と取組の考え方に対する合意形成を進めました。

(1) 都心まちづくり計画策定協議会委員

		専門	氏名（敬称略）	所属
策定協議会委員	学識	都市計画	会長 小林 英嗣	北海道大学名誉教授、(一社)都市・地域共創研究所 代表理事
		都市デザイン	副会長 蓮見 孝	札幌市立大学 理事長・学長
		環境・エネルギー	村木 美貴	千葉大学大学院 工学研究科 教授
		都市マネジメント	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 教授
		観光	中鉢 令兒	北海商科大学 商学部 教授
		交通	高野 伸栄	北海道大学大学院 工学研究院 教授
		交通	中村 文彦	横浜国立大学 副学長
	民間	金融・経済	松島 一重 (関根 久修)	株式会社日本政策投資銀行 北海道支店長
		商業・経済	池内 和正	札幌商工会議所 政策委員会 副委員長
		民間都市開発	遠藤 一夫 (清水 弘之)	三井不動産株式会社 北海道支店長
			大鐘 稔陽	三菱地所株式会社 札幌支店長
		エリアマネジメント	白鳥 健志 (越山 元)	札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長
			廣川 雄一	札幌大通まちづくり株式会社 代表取締役社長

※（ ）は、旧委員。

(2) 計画策定過程（検討の枠組みと検討経過）



(3) 関係各種団体等意見交換の実施

実施月日	関係団体名
平成27年12月3日	豊水地区連合町内会役員会
平成27年12月4日	本府地区町内会連合会役員会
平成27年12月9日	中央地区町内会連合会役員会
平成27年12月16日	札幌駅前通協議会
平成27年12月21日	札幌観光協会
平成27年12月21日	北海道ハイヤー協会
平成27年12月22日	北海道バス協会
平成28年1月12日	北海道トラック協会
平成28年1月18日	東北連合町内会役員
平成28年1月28日	東地区連合町内会役員会
平成28年1月29日	大通地区町内会連合会役員会

【資料4】 都心まちづくりフォーラム2016 開催概要

●実施概要

日時：平成28年3月16日(水) 18:00～20:15
会場：北海道立道民活動センターかでの2.7 かでのホール
(札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル1階)
主催：札幌市 市民まちづくり局都市計画部都心まちづくり推進室
参加者数：約150名

●プログラム

1. はじめに～開会の挨拶～ (18:00～18:05)
札幌市長 秋元 克広

2. 基調講演
◆基調講演1 (18:10～18:45)
「次代につなげる都心のレガシー」
北海道大学名誉教授／一般社団法人都市・地域共創研究所代表理事 小林 英嗣氏

◆基調講演2 (18:45～19:20)
「札幌の個性を活かしたエリアマネジメントの提案」
法政大学 現代福祉学部 人間社会研究科 教授 保井 美樹氏

3. パネルディスカッション (19:30～20:15)
「戦略的な都心強化を支えるまちづくりの一手
～都心まちづくりを支える体制(プラットフォーム)の実現に向けて～」
◆コーディネーター
北海道大学名誉教授、一般社団法人都市・地域共創研究所代表理事 小林 英嗣氏
◆パネリスト
札幌市立大学 学長・理事長 蓮見 孝氏
法政大学 現代福祉学部 人間社会研究科 教授 保井 美樹氏
札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長 白鳥 健志氏
札幌市市民まちづくり局都市計画担当局長 浦田 洋

【資料5】 計画の公表と市民意見の募集

1 意見募集概要

(1) 意見募集期間

平成28年2月23日（火）～3月23日（水）（30日間）

(2) 意見募集方法

持参、郵送、ファックス、電子メール

(3) 資料配布・閲覧場所

○市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心まちづくり課

○総務局行政部行政情報課（市政刊行物コーナー）

○各区役所総務企画課

○まちづくりセンター（本府・中央、東北、東、豊水、西）

2 意見の内訳

(1) 意見提出者数及び意見提出件数

○意見提出者数 11人

○意見提出件数 15件

計画案の項目	意見数	割合
序章 都心まちづくり計画見直しの背景と計画の位置付け	1件	7%
I章 都心まちづくりの目標	2件	13%
II章 都心の構造	3件	20%
III章 都心まちづくりの戦略	5件	33%
IV章 持続的な取組を通じた都心の空間形成指針	1件	7%
V章 都心まちづくりの着実な展開に向けて	0件	0%
第2次都心まちづくり計画展開プログラム	3件	20%
合計	15件	100%

(注) 計画案と直接の関係がないご意見（他事業へのご意見等）については、非公開とし、ご意見に対する本市の考え方は記載していません。

(2) 意見の概要と札幌市の考え方

序章 都心まちづくり計画見直しの背景と計画の位置付け（1件）			
意見 番号	該当 ページ	意見の概要	札幌市の考え方
1	3	<p>都心を「ほぼひし形に広がる区域」としてはいますが、抽象的で具体性に欠ける。</p> <p>そして、都心が都市機能の中心部であれば、創成川よりも東側は、どう考えても都心と評価できない。</p>	<p>都心の範囲については、業務機能や文化施設の集積、交通結節点としての機能等といった都心の特性を踏まえ、一体的にまちづくりを進めていくべき範囲として定めたものであり、ひし形は、都心の東西南北を結んだものです。</p> <p>都心のまちづくりは、このひし形の中だけで行うものではなく、必要に応じて周辺区域についても検討を加えます。</p> <p>創成東地区は、北海道開拓期から、官営工場などが立ち並び、ものづくりの中心でありました。</p> <p>また、近年は、都心中心部に近いという利便性の高さから、都心居住の重要な拠点となっています。</p>

I章 都心まちづくりの目標（2件）			
意見 番号	該当 ページ	意見の概要	札幌市の考え方
2	10	<p>国内外から投資を呼び込むうえで、環境性・防災性だけが札幌都心のメリットではないはず。これだけで「札幌都心ブランド」は出来るのだろうか。新たに札幌のオフィスワーカー、住民となるうえで、札幌都心の魅力が伝わらない。</p>	<p>まちづくりの目標を達成するための取組である戦略を4つ定めています。</p> <p>その中で、環境性・防災性に加え、市民や来街者にとって魅力的なライフスタイル・ワークスタイルの実現等を掲げており、これら戦略を総合的に進めることで、札幌都心ブランドの構築を進めていきます。</p>
3	11	<p>まちづくりの理念である「S・M・I・L・E s」のEが取ってつけたように感じる。色々なEがあるというのは、柱にする程の強さを持っていないように思えた。「S・L・I・M」で良かったのでは。</p>	<p>これからのまちづくりは、単にまちを造っていくのではなく、そのことが、最終的に経済発展・雇用創出や低環境負荷等に結びつくことが大事であるということを明らかにするため、まちづくりの理念にEを加えています。</p>

Ⅱ章 都心の構造（3件）			
意見 番号	該当 ページ	意見の概要	札幌市の考え方
4	14	東四丁目線が展開軸となっているが、第5回策定協議会までは骨格軸にすとなっていた。11月の素案公表時から展開軸に戻されており、協議会の議事録でもその点には触れられておらず、不透明な変更である。変更理由を明確にすべき。 骨格軸と展開軸の違いは何か。	骨格軸は、都心における複数のエリアや交流拠点等を結び付ける役割を持っており、東四丁目線は、創成東地区内の回遊・交流を支える軸であることから、骨格軸とは意味合いが違うことから展開軸としています。 これは、「都心まちづくり戦略」での位置づけを踏襲したものです。
5	19	大通公園西周辺エリアをターゲットエリア化した点はMICEを活性化させる点では評価できるが、ニトリ文化ホール跡地等に大規模会議場を造ることを目的とした設定に見える。 札幌コンベンションセンターの活用が全く見えてこない。コンベンションセンターが現状において、国内・国際会議に十分活用されていないのであれば、その点を明確にして新たな会議場をつくるべき。	大通公園西周辺エリアは、当エリアにおけるホールやホテル等によるこれまでのMICE開催の実績等を踏まえ、更にこれらの動きを推進していくために設定したものです。 コンベンションセンターを含めた札幌市におけるMICE戦略については、札幌市全体の課題として、今後も引き続き検討していきます。
6	19	都心強化先導エリアの範囲を示す線は、曖昧にせず、道路などできちりと示すべき。	当計画で示している各エリアについては、エリア内外を明確に線引きして取組を行うものではなく、必要に応じて、その周辺地区とも連携していくため、このような表現としています。

Ⅲ章 都心まちづくりの戦略（5件）			
意見 番号	該当 ページ	意見の概要	札幌市の考え方
7	22	<p>戦略1として「世界が注目する魅力と活力、ライフスタイルを実現するビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現」とあるが、「～実現する～の実現」って詰め込み過ぎであるし、はっきり言って意味がわからない。</p> <p>仰々しい修飾語句を並べても逆に本質が伝わりにくくなる。</p> <p>どうしても、両方の言葉が必要であれば、最初の「実現」を「発信」に置き換えて、「世界が注目する魅力と活力、ライフスタイルを発信するビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現」としてほしい。</p>	<p>戦略1は、札幌都心に世界が目を向け、ヒト、モノ、投資等呼び込むための重要なメッセージと考えていることから、このような表現としています。</p>
8	23	<p><戦略1：世界が注目する魅力と活力、ライフスタイルを実現するビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現>について、時計台をはじめ、都心には古い建物がいくつも現存しているが、歴史的建造物は「まちの顔」として景観を形づくる重要な要素であり、貴重な観光資源である。古い建物を積極的かつ適切に活用していくことが建物の保全にもつながるので、そのような取組により貴重な遺産を次世代に引き継いでいただきたい。</p>	<p>札幌の都心には、ご指摘のありました時計台をはじめとして、先人から引き継いできた貴重な財産が数多く存在しています。</p> <p>本計画は、そのような貴重な財産を都心のポテンシャルの一つととらえ、新たな価値を加え次世代に引き継いでいくまちづくりを進めるという考えにたっております。</p> <p>そのような取組の例として、札幌の開拓期からの都市形成を支えたレガシーとしての大通公園を次世代へ引き継ぐ取組、すすきのエリアに存在する鴨々川や歴史的建物などの活用、創成東地区におけるリノベーションの活用などを行うこととしています。</p>

9	27	<p>札幌都心をより魅力的な場所にしていけるためには、魅力的な札幌都心のライフスタイル・ワークスタイルを発信していくことが大切である。</p> <p>実際に札幌都心で住んでいる、働いている、活動している魅力的な人とそのライフスタイルをスタイリッシュに発信していくと良い。</p>	<p>本計画は、都心まちづくりの目標を定める視点として、身近な自然と高次な都市機能が共存した札幌固有の環境を享受できる豊かな暮らしの場を創造し、札幌らしいライフスタイル・ワークスタイルを実現することを掲げています。</p> <p>ライフスタイル、ワークスタイルの実現のためには、発信するというのも重要ですので、地区の魅力向上に資するエリアマネジメント活動を展開する中で、発信といった点も重視していきます。</p>
10	29	<p>様々な主体を束ねた都心エリアマネジメントの仕組みづくりの推進はとてもよい。</p> <p>この主体にはユニバーサル・バリアフリーといった考えが前提条件として含まれているとは思いますが、大切なポイントとなるのでコメントさせてもらう。</p>	<p>本計画は、成熟社会を支える都市づくりを課題として掲げ、その実現する姿として、誰もが都心に来やすく、移動しやすいまちの実現や、ユニバーサルデザインに配慮した移動空間、滞留空間を創出することなどとして表現しています。</p> <p>多様な主体の取組を束ね都心マネジメントの仕組みとなるプラットフォームづくりを進めるにあたって、そのような考え方を大切にして進めていきます。</p>
11	全般	<p>札幌都心は主に働く人のまちだと認識している。</p> <p>都心で働く人々が、都心に戦略通りの魅力を感じているのか、働いている地域に愛着があるのか、市民間の共通意識ができるまで十分議論されていないと感じる。</p> <p>様々な問口から都心に関わる人のつながりづくり、都心のまちづくりについて考える機会を設ければ、創造的なアイデアがつながり合い、市民が自分事として共通の目標を目指して都心の魅力アップに関わることができるのではないか。</p>	<p>都心各地区のエリアマネジメントの取組においては、都心で働く人々が交流し、自らのまちの良さを再確認してもらうことが重要であると認識し、様々な取組が進められています。</p> <p>また、本計画のP23に記載しており、こうした人々がつながり、新たな価値、活動を創出していく場としての側面を持ったナレッジキャピタルやフューチャーセンター等の機能を札幌版として都心に設けることも検討しているところであり、こうした取組が、都心の魅力を高める動きにつながっていくものと考えています。</p>

IV章 持続的な取組を通じた都心の空間形成指針（1件）			
意見番号	該当ページ	意見の概要	札幌市の考え方
12	41	<p>都心商業エリアの取組の内容を見ると、これは行政がやることなのか？むしろ地元の商店街がしっかりしなければならないのではないかと感じる。</p> <p>パチンコ屋とドラッグストアばかりで今の大通には全く魅力を感じず、足が向かない。</p>	<p>当計画の目標実現のためには、行政のみでは不可能であり、行政、市民、民間企業などが、それぞれの役割を果たしていくことが重要です。</p> <p>都心商業エリアにおいても、行政や地元商店街等が一体となって、まちづくりを進めることで、魅力と活力を創出していきます。</p>

第2次都心まちづくり計画 展開プログラム（3件）			
意見番号	該当ページ	意見の概要	札幌市の考え方
13	全般	<p>今後も人口減少や高齢化により財源もより限られてくることから、先行投資すべき施策を今後慎重に選択して欲しい。</p>	<p>ご指摘のとおり、目標実現のため、より効果的に取組を進めることが重要です。</p> <p>本計画においては、展開プログラムを5年毎に区切り、社会情勢の変化や取組の進展状況を反映するため、プラットフォームによるプログラムのモニタリングを行う事としています。</p>
14	7	<p>都市開発を推進するために規制緩和策などを検討される際、低炭素化や地域エネルギーネットワーク、駐車場施策など、本計画に記載されている総合的な都心まちづくりの観点から、これまでの空地による容積率緩和だけではなく、都心の質を高める誘導策として検討してほしい。</p>	<p>本計画においては、計画の目標実現のため、プラットフォームを組成し、計画の検証やプログラムの見直しなどを行っていきます。</p> <p>その中で、これまでの取組とは違った都心の質を高めていくための誘導策についても検討していきたいと考えています。</p>

15	14	<p>展開プログラム9-4の記述に「通行空間ネットワークの形成」を加えてほしい。</p> <p>また、短期的な取組についても、「札幌市自転車利用総合計画」のP63の「具体的施策」を参考にして「通行空間ネットワークの形成につながる施策を明記してほしい。</p> <p>2020年度までに、「札幌市自転車利用総合計画」の計画期間に何もできないことになり残念である。</p>	<p>展開プログラム9-4の記述を、「自転車のルール・マナーの浸透と通行空間や駐輪場の整備による自転車利用の適正化」と修正します。</p> <p>また、短期的な取組については、展開プログラムに記載する「歩行者と自転車の共存する空間の創出事業」において、通行空間ネットワークの形成につながる施策等を進めていく予定です。</p>
----	----	--	--